

南ア月報

(2012年1月)

在南アフリカ日本国大使館

1. 内政関連

●ANC 100周年記念式典開催

6日から8日の間、当国与党 ANC 結成の地である自由州ブルームフォンテンにおいて党結成 100 周年を記念する行事が開催された。我が国からは、7日夕刻のガラディナー及び8日のスタジアムでの式典に、政府与党を代表して米長晴信参議院議員（民主党副幹事長、日 AU 友好議連幹事長）及び姫井由美子参議院議員（日南ア友好議連幹事長）が出席した。また、日本における反アパルトヘイト運動の元指導者である秋庭稔男現日本アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会代表理事も招待された。式典では、ズマ大統領が党総裁として、1912年の党結成からアパルトヘイト体制崩壊までの「闘争時代」の経緯、94年の民主化後の「新生南ア」に言及した約2時間にも及ぶスピーチを行った。

●リンポポ州、国庫から財政介入を受ける

19日、ゴードン財務大臣及び他の5閣僚は、ポロクワネにて、リンポポ州政府に対する中央政府の介入を行う旨発表した。同州政府は失政により財政が危機に瀕しており、国庫はこれ以上のリスクを避けるために、法令に基づき介入を行うとした。しかし、同じように財政状況が深刻な州が他にもある中、何故リンポポ州のみが介入を受けるのか、当介入は政治的な意図があるといった批判の声もある。

●ゴドングワナ経済開発副大臣辞職

16日、ゴドングワナ経済開発副大臣は辞職を発表し大統領府の承認を受けた。「ゴ」元副大臣の辞職理由は、ストレスを軽減し、ANC 内の経済運輸委員会委員長としての業務に集中したいとのことであったが、現在当大臣には1億ランドのペンションファンド損失に関与したとされる嫌疑がかけられており、辞職との関連性における捜査が続行中。（当館注：「ゴ」副大臣及びその妻は南ア企業 Canyon Springs Investments 取締役会役員を務めており、当企業の大口株主。ファンド損失は「ゴ」元副大臣が副大臣に就任する前に発覚しており、任期中に調査が行われていた。）

●フィリップ・デキスター氏、COPE を去る

4日、野党 COPE の報道官でレコタ党首の側近とも言われたフィリップ・デキスター議員が、COPE を離党し元々の所属政党である与党 ANC に復党する考えを発表した。COPE は党結成及び2009年に行われた総選挙以来、党の内紛が絶えず、数多くの支持者や党員、求心力そのものを失ってきた。デキスター氏の離党は COPE にとって更なる痛手となる。

2. 外政関連

●マダガスカル情勢

6-8日に開催された南ア与党 ANC の結党 100 周年記念式典に、AU 加盟国間で渡航禁止が決議されているラジオリナハ T 大統領が出席したことを受け、南アに亡命中の

ラヴァルマナナ・マダガスカル前大統領側近が、本件がA U決議違反行為であると避難した。

20日、ラヴァルマナナ前大統領は記者会見を開き、翌21日にマダガスカルに帰国すると発表した。帰国の試みは、ラヴァルマナナ前大統領の乗った飛行機が、アンタナナリボ空港が数時間閉鎖するとの通告を受け、引き返すことになったことで、失敗に終わった。

フランスマン国際関係・協力副大臣は、20日付で上記帰国騒動に関する声明を発表し、ラジョリナ側の対応を批判しつつも、ラヴァルマナナ前大統領の帰国の試みについても時期尚早であったと否定的に評価した。

●ズマ大統領国連関係会議出席

10日、ズマ大統領は、南アの国連安保理議長国就任に際して、種々のハイレベル会議に出席し、地球の持続可能性に関する国連ハイレベルパネル（G S P）の共同議長を務めるため、ニューヨークに到着した。

また、南ア代表団は、アフリカにおける紛争防止及び紛争管理・解決の分野で、国連・A U間の首尾一貫性をより強化するための具体的な方策を採ることを目的としたハイレベルのテーマ討議を開催した。

さらに、ズマ大統領およびハロネン・フィンランド大統領は、国連本部において、バン国連事務総長の地球の持続可能性に関するハイレベルパネルの共同議長を務めた。

●A U委員長選挙

18日、ヌコアナ＝マシャバナ国際関係・協力大臣は、ドラミニ＝ズマ内務大臣同席のもと、同内務大臣のA U委員長選挙立候補を公式に発表し、同内務大臣はS A D C諸国のエンドースを受けていると述べた。

30日、アディス・アベバのA U総会で行われた選挙では、ドラミニ＝ズマ候補は3回の投票で一度も多数票を得ることができなかったが、現職のピン議長が3回の投票及びその後の信任投票でも3分の2以上の票数を得られなかったため、ドラミニ＝ズマ候補の陣営はピン議長を当選させなかったという意味で南アが一定の勝利を収めたとの趣旨の発言を行った。

●ズマ大統領ダボス会議出席及びカタール訪問

23—24日、ズマ大統領は、2国間の政治経済関係の強化及びアフリカの平和と安全の促進を目的に、カタールを訪問し、リビア等の中東・アフリカ情勢につきハマド首長と会談した。

その後、25日にはズマ大統領はスイスに移動し、ダボス会議に出席した。なお、動向したデイビス貿易産業大臣は、インドおよびブラジルの貿易大臣とともに、ダボスにてI B S A貿易大臣フォーラム会合を行った。

●ズマ大統領A U総会出席

ズマ大統領は、アディス・アベバを訪問し、27—28日には第26回N E P A D首脳・G O C会合に、29—30日にはA U総会に出席した。

●その他

3日、ズマ大統領は、南アを訪問したユーセフ・イブラヒム・シェリフ・リビアN T C特使と会談した。同特使は、リビアの再建と開発のために南アの支援を得たいと述べた。

6-7日、ラガルドIMF専務理事が南アを訪問、ズマ大統領との会談等を行った。

10日、ロサレス・デル・トロ・キューバ閣僚評議会副議長が南アを訪問し、シスル防衛大臣との間で、両国間の防衛分野の協力に関する合意に署名した。

29日、大統領府及び与党ANCは、バレカ・ムベテ元副大統領がNEPADの実施機関の一つとして創設されたAPRM（アフリカ・ピア・レビュー・メカニズム）の賢人パネルに満場一致で選出されたことを歓迎する声明を発表した。

3. 経済

<経済指標>

●物価上昇率

12月の対前年同期比は6.1%にとどまり、6.3%に上昇するとの予想を下回った。そのため、南ア準備銀行における2012年後半には金利引き上げ実施の圧力が和らいだ。12月の物価上昇の要因は、食料品、不動産、公共サービス、交通料金が高額となったため、同傾向は年内継続する見込み。エコノメトリックスの経営陣の中には、ランドが増価するとの見通しのため、物価上昇は予測よりも低くなるとの考えも見られる。

●金利

1月の金融政策委員会で南ア準備銀行は、経済成長及び物価上昇が減速している状況を考慮し、政策金利を5.5%に据え置くこととした。南ア準備銀行は、第2四半期の6.6%をピークとして年間の物価上昇率は3%~6%の目標範囲内にとどまり、経済成長率はヨーロッパにおける債務危機の悪影響を受けて前年の3.1%から2.8%に減速すると予測している。

●製造業

製造業生産は、11月に対前年同期比で2.6%、対前月比で2.9%増加した。南ア統計局によると、生産が激減した10月（対前年同期比（1.2%増））からの回復が見られた。ABSAキャピタルのアナリストは、同数値は製造業では勢いが出始めていることを示すと指摘するが、他のアナリストは南アの輸出の1/3を占めるヨーロッパにおける不況の前では、製造業の見通しは脆弱なままであると警告する。

●鉱山部門の生産

南ア統計局によると、11月の鉱山部門の生産は、対前月比で11.2%増加、対前年同期比で4.5%減少となった。同部門は、前年は第3四半期の生産が17%減少するなど、業績が悪かった部門のひとつであった。ABSAキャピタルのアナリストは、それぞれ鉱山部門は経済危機以前の最高期の20%減少、製造業部門は13%減少という低水準で生産していると指摘した。NEDBANKのアナリストは鉱山部門の生産は、国内及び国際的な経済成長予測を考慮すると数ヶ月間は低水準を維持することになるであろうと指摘した。

●自動車販売

南ア自動車製造業者協会（Naamsa）によると、12月の自動車販売台数の対前年同期比は11%増（43,790台）となった。12月の数値はメルセデス・ベンツの台数を除いている。これは、カルテルの申し立てに対するヨーロッパでの調査、及び親会社であるダイムラーのトラック部門の価格操作により、NAAMSAの月間報告への参加が見合わせられているためである。メルセデス・ベンツの台数を含めると、2011年12月の販売台数は45,200台になると

見込まれている。2011年の国内新車販売は570,120台と対前年同期比で15.9%増加したが、中国産の長城汽車が報告する6,545台を含めると578,000台となる。

●自動車輸出

南ア自動車製造業者協会（Naamsa）によると、11月の南アの自動車輸出（20,480台）は対前年同期比で28%減となった。対前月比では、10月の輸出（25,763台）に比べて20.5%減少となった。2011年の年間の輸出台数は、NAAMSAの予想値（281,000台）を下回る見込み。

●外貨準備高

南アの外貨準備高は、金の減価、対ドルのランド減価に影響され、12月に2ヶ月連続で減少し、純外貨準備高は478億7千万ドルであった。スタンダード銀行のエコノミストは、南アの外貨準備高は他の新興国諸国に比べて少なく、ランドの乱高下を規制するためには外貨準備高を増やすことが決定的に重要だと指摘した。

<出来事>

●格付会社フィッチ・レーティングスは、南アの格付をBBB+の「安定」から「ネガティブ」に変更した。これは11月のムーディーズによる評価と同様の変更であった。スタンダード・アンド・プアーズは、南アの格付けをBBB+の「安定」と維持している。フィッチ・レーティングスは、高い失業率、低い成長率、公的資金に対する強い圧力、国有化議論などの構造的な南アの問題に留意している。フィッチ・レーティングスは、国有化議論の決着は、6月のANC政策協議会まで明らかにはならないだろうと見込んでいる。

●南ア商工会議所（SACCI）の調査では、回答者の21%が公共サービス提供の問題は、ビジネス活動の妨げになっているとの意見であることが示された。調査によると政府機関の管理体制は、経済活動に悪影響を及ぼしている。例えば、道路の補修が最も状況が悪く、配電、水・下水管理、公園管理、廃棄物処理などがあげられた。スタンダード銀行のエコノミストは、民間企業は資本に余裕があり、金利が過去35年間で最低にもかかわらず、投資を控えていると指摘した。

●1月、COSATUの主導によって、汚職の犠牲者や一般市民に対して専門家が早急に対応する独立監視機関であるCorruption Watchが設立された。同監視機関は、メディアによる報告文書、調査報告、データ分析による汚職パターン識別、汚職の現場等の様々な情報を収集する。

●Eskomは、商業及び民間消費者に対して、電力消費の10%節電を要求した。Eskomは電力の国内需要と供給の情報提供をするために、週間報告書を発行した。Eskomは大型顧客に対して電力消費を削減するよう依頼しており、既に電力供給の一時停止も実施している。

4. 広報・文化

●バイオリニストとハーピストによるデュオ・X [iksa]（イクサ）によるコンサート

日本人バイオリニストの辺見康孝氏とハーピストの松村多嘉代氏によるデュオ・X [iksa]（イクサ）が24日から当地を訪問し、ヨハネスブルグで当地作曲家マイケル・ブレーク氏らとともにワークショップを行うとともに、31日にはダーバンでコンサートを

行った。2月1日にはヨハネスブルグ・インターナショナル・モーツァルト・フェスティバルの一公演としてコンサートを行うほか、5日にヨハネスブルグで、7日にステレンボシュ大学でそれぞれコンサートを行う。

5. 警備・治安

●南アにおける都市別殺人事件の発生率

治安が悪いと言われている当国の都市の中でもとりわけ、ヨハネスブルグは世界で最も治安の悪い都市の一つであることは周知の事実だが、実は、「殺人事件の発生率」という枠組みで捉えた場合には、少しばかり趣きが異なってくる。

今月、メキシコのあるリサーチグループが、世界の10万人以上の都市を対象（暴動やテロが頻発している都市は除いた一般的な都市を対象）に、人口10万人に対する年間（2010年度）の殺人発生率の都市ランキングワースト50位を発表した。その結果、南アの都市は4都市ランクインし、南ア国内トップになった（南ア国内でより殺人発生率が高くなった）のは、34位のケープタウンであり、人口10万人に対し46人が殺人事件被害に合うという計算となった。因みに、他の都市でランクインしたのは、41位のポート・エリザベス、（人口10万人中36人）、49位のダーバン（30.54人）、50位ヨハネスブルグ（30.50人）となっている。

ケープタウンは比較的安全な都市という印象を持っている方も多いが、切り口を少し変えると意外な結果となった。この統計結果に対しては、犯罪の形態や地理的なものをさらに詳細に盛り込まなければ、一概には危険な都市とは言いきれない等の批判はあるが、少なくとも、殺人の被害者が出ていることは動かない事実であるため、我々邦人も犯罪に巻き込まれないよう、用心をして行動をする必要がある。

ちなみに今月中旬、ケープタウンを旅行する2名の邦人女性バックパッカーが、バックパック宿（安宿）において就寝中、外から侵入した黒人の男に旅券、現金、カメラ、パソコン等を窃取される事件が起きた。侵入された第一の原因は、「ケープタウンは比較的安全」という意識から、部屋の鍵も掛けずに眠り込んでしまったことにあるが、若い女性が施錠もせずに就寝する行為は不用心極まりなく、いついかなる場合でも注意が必要である。